



弱い労働基準:馬肉スキャンダルの背後にあるスキャンダル

欧州全体で食品製造業者は、彼らの肉の原料がどの動物で出来ているのか探するために DNA 検査プログラムを実施しているが、一方でこの一連の食品安全性スキャンダルの根本的な原因が無視され続けている。

犯人を捜すのは重要だが、世界の食料制度における根本的な食料保障のリスクは変わらない。今では、政府と産業の報道担当者は、多数の層からなるアウトソーシングがサプライチェーンの関連のモニターを難しくしていることを認めるが、ますます外注化されたチェーンの雇用との関連は無視されている。延長されたサプライチェーンは、搾取される、立場の弱い不安定雇用労働者の延長されたチェーンに支えられている。食品の安全性を日常業務の中で保護する労働者の保護は、彼らが様々な派遣業者と契約業者に雇用される時さらに困難になる。農業や食品労働者が公衆衛生とその利害を守る役割を果たすには、組織化の権利を有さなければならない。

最近の食品スキャンダルは起こるべくして起こった。過去 20 年間、IUF は、常に、世界食料制度の中で食品安全性にリスクを生じる力を見つけだしてきた。1990 年代の牛海綿状脳症と狂牛病の背後にあったのは、精肉産業の規制緩和、アウトソーシング、労働組合と職場の権利の保護を弱めた事実である。ここ数十年間の数多くのサルモネラと大腸菌食中毒と製品のリコールと同様である。

今、2013年に新たな食品安全性のスキャンダルがあるが、企業と規制当局は以前と同様の失敗した処方と PR の弁解を繰り返している。

食品安全性の確保には、社会保護と市場規制を要する。勝手にさせておくと、市場は資金と力を集約させ、サプライヤーへの支払い、賃金、職場の安全衛生に関して下に向かう螺旋の競争を奨励する。安価な食品の真の対価は、社会の荒廃である。

安全な食品の権利を世界の食料を生産する人々の権利と分けることはできない。作業強化、仕事の不安定さの増加、危険で不健康な職場、労働組合と団体協約の欠如が食品安全性のリスクの根本原因である。強力な規制とその実施に支えられる食料生産のアプローチに基づく権利は、食品安全衛生に対する完全なアプローチの重要な要素であるが、予想可能なあらゆるスキャンダルの後、リスク削減の処方において食品会社やスーパーマーケットや政府は、これらの要素を常に見落してきた。

生産者、加工業者、製造業者、消費者は、安全な食品を最も高い優先事項として扱うために、生産と加工部門の労働者が果たす役割を食品安全性確保の必要不可欠な部分として考慮しなければならない。

2002 年の IUF 刊行物、[『WTOと世界食料制度—労働組合のアプローチ』](#)の中で、IUFは、世界貿易機関(WTO)が提唱するより大きな規制と社会保護の削減のリスクに焦点を当てた。WTOは、大企業の利害にくみする世界貿易制度を容赦なく追求している。

有害な殺虫剤に関することであれ、生産ラインのスピードアップに関することであれ、安全な食の権利の保護は、店舗の棚に始まるのではなく、畑や工場が始まる。

ここ数十年間の屠殺と生産加工ライン速度の 2 倍化、3 倍化は、肉関連の食中毒事件の増加の背後にある病原体の広がりの方則ベクトルであった。労働者に安全衛生のリスクを生じる生産システムは、安全でない食品も生む。従って、安全な食の権利は、食品加工労働者の安全な職場環境を確保するための組織化と団体交渉の権利と分けることはできない。(WTO 報告書から直接引用)

2002 年 5 月の第 24 回 IUF 総会で、IUF は以下を宣言した。

食品産業のビジネスカスタマーの急速な集約(主にグローバル小売チェーンとファーストフードとケータリング事業)は、引き続く値下げ要請でサプライヤーに恒常的なプレッシャーをかけ、そのため、サプライヤーに品質と安全性を危うくさせる。同様の強化と集中化は、生産ラインのスピードアップと過剰な残業の要求で、食品加工産業とケータリング産業の労働者の労働条件を悪化させる。(総会文書決議2: 食品の安全性から直接引用)

総会は、食品安全性と強力な組合に守られた仕事に関する労働者の権利の間に強い相関関係があることを再確認した。職場の問題や非衛生な状況を報復や嫌がらせを恐れることなく発言する権利を有する労働者は、食品が運ぶ病原に対してより良い砦となる。尊重され、公正に処遇される労働者は、おそらく、経験を積むに十分長い期間、その仕事に留まり、新しい従業員が安全な食品の取り扱い慣行を学び、遵守するのを助ける。敬意を持って処遇される労働者は、彼らの顧客の健康を気遣うだろう。消費者と他の団体との活発な提携を通じて強化される職場と社会における強力な組合の存在は、消費者の安全衛生の最善の保証である。(総会文書決議2: 食品の安全性から直接引用)

2006 年 3 月、IUF は、鳥インフルエンザ(H5N1)の広がりした後、労働者の権利と労働条件と食品安全性と公共衛生の関係を強調した。

労働者は、最低の食品安全基準が実施されているかを判断する上で最適の場所にいることが再び指摘された。労働条件、労働者の権利、食品安全性、公衆衛生の直接の関係を強調して、IUFは、鳥肉加工におけるラインスピードの上昇は鳥の内臓や血液や糞の安全な処分と適正な洗浄を不可能にし、加工された鳥肉の糞汚染のリスクを増すことを認識した。(以下の記事から直接引用) ([鳥インフルエンザ\(H5N1\)とフードチェーン:労働者の権利と労働条件と食品安全性と公衆衛生の関係](#))

2008年のメラミンスキャンダルの時までには、大手食品企業によって多数の層のアウトソーシングが確立され、そのため消費者は、好みのブランドの原料、あるいは最終製品でさえもどこで仕入れられたのかもはや知りようがなくなった。

ブランドを支持する消費者は、彼らの好きなクラフト、ネスレ、ユニリーバ製品はクラフト、ネスレ、ユニリーバが製造していると信じ続けるだろう。グローバルなブランド化は、多くの生産を提携製造業者と呼ばれる外部契約者に委託し、彼らのブランド製品を製造させるために都合の良い隠れ蓑となっている。(以下の記事から直接引用)この記事は、2007年に北米で、何千匹ものペットを病気にし、死なせた後にリコールされたメラミン汚染のネスレ・プリナペットフードは、このような北米の提携製造業者が製造したということに注目している。([メラミンミルク汚染がグローバルブランドの現実を露呈](#))

外注生産と配送は、品質管理を外注化することだ。人並みの仕事につき、自分たちの産業に関心を持つ労働者を大勢の監査人にとって代えられない。食品の安全性は、仕事の質と製品が加工、製造される職場環境に関係している。

英国の環境大臣と英国食品安全機関(FSA)は、現在の馬肉スキャンダルに関して犯罪行為と偽装行為を非難するだけだ。当局が検査体制を思案している間、IUFは、再び使用者と政府に対してこの問題の真の原因—低賃金、契約労働、食品労働者の基本的人権侵害の広がりから利益を受けている無節操な使用者—に取り組むよう要請する。

食品安全性確保を担当する政策立案者はその注意を食品労働者の状況に向けなければならない。こういった労働者は、往々にして家族から離れて暮らす移民労働者で、貧困賃金で、派遣業者に雇われ、生活の糧を失う恐れから発言を恐れる者である。労働組合権強化、組合の組織化を弱体化させる不安定雇用の役割を押し戻すこと、職場と製品の安全性が規制政策の中心に据えられるべきである。

IUFは、食品安全性の強力な規制を以下を通じて要請する：

- 特に組合加入、全労働者のための団体交渉の権利を促進し、保護する全国雇用規制強化
- 全食品労働者の安全衛生を保護する厳格な人間工学基準
- 不安定雇用の増加を制限する規制
- 全契約製造業者の明確な確認を含むフードサプライチェーンの包括的かつ透明な報告制度
- 労務監督と食品安全性検査の強化および実施体制強化、そしてこれらの体制の全ての段階に組合代表を入れること
- 内部告発者の保護規制

組合に組織された労働者と強力な法律に支持された団体交渉は、食品安全性の濫用あるいは偽装行為に関して自身を持って安心して発言する労働者によって適正にモニターされうる基準を設定しなければならない。

国際食品農業・ホテルレストランケータリング・タバコ関連労組 (IUF) は、加盟人員 260 万人以上、122 国の 390 労組から構成される国際労組連合。本部は、スイス、ジュネーブに置かれる。



www.iuf@iuf.org

Rampe du Pont-Rouge, 8, CH-1213, Petit-Lancy (Switzerland)

Phone: + 41 22 793 22 33

Fax: + 41 22 793 22 38

E-mail : iuf@iuf.org